



小さな店内で吊り込み作業を黙々とこなす福島さんのおすすめはカンガルー革。柔らかく履きやすいそうだ。



セレブとかではない 正味の「ええもん」。 かのエヴィス総帥も憧れた名靴。 【コバヤシ靴店】の革靴

エ

ヴィスの総帥・山根英彦氏から「儲かったらこんなクツ履けよ」と、1足の革靴に足を通させてもらったことがある。10年以上も前だが、明らかに大きいにも拘わらず、踵に吸い付いてくる感触は今でもハッキリ覚えている。オーダーで作ったという靴は「コバヤシ」のもの。曾根崎にある小さな店だ。

大正11年創業、現在四代目の福島さんは「靴は踵、土踏まず、甲の3カ所で履く」が持論だ。そのためにはまず、踵を丸く吊り込まなければ



ならない。現在の靴作りでは、省略される事も多い工程だが「当たり前」と難なくこなす本気の仕事こそが、今でも忘れられない「あの感触」の答えだった。1足10万円から。安い買い物ではないが「オーダーとは寸法を測って合わせるのではなく、お客様の好みに合わせる」と語る福島さんに、赤いローファーをお願いしようと思っっている。本が売れたら、
（松本賢）

コバヤシ靴店

曾根崎 map P6-D

まず、店に履いてきた靴のシワなどを参考に、左右のサイズを出してもらおう。店内の靴から基本の形や革を選べば、完成までは約2カ月。

●北区曾根崎2-10-29 ☎06-6311-7368 11:00AM~8:00PM(日・祝 12:00AM~5:00PM) 第3日曜休